



# Nagoya GRAMPUS

## 名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語 「新しいワイズダムを築こう イエスの教えのもとに」  
 アジア会長標語 「一粒の種となろう」  
 西日本区理事標語 「(夢を語り未来を創造しよう) -クラブビジョンを語ろう-」  
 中部部長標語 「参加することを楽しみを見つけよう Enjoy Your Commitment」  
 クラブ会長標語 「10周年に向けて、再度団結しよう」

## 2002年2月号

### < 今月の聖句 >

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る天地を造られた主のもとから。どうか、主があなたを助けて足がよろめかないようにし、まどろむことなく、寝ることもない。  
 詩篇 121

例会出欠・遅刻の連絡は「ご出欠連絡書」によりお願いします

## 2002年2月例会ご案内

### 第一例会

と き : 2月12日(火)  
 と ころ : 名古屋YMCA  
 時 間 : PM7:00~  
 第一部 総会 (次期役員選出)  
 第二部 Y's研修会  
 11/25日に行われたY's研修会「ワイズ知ってる会」の報告及びクラブ内の意見交換会  
 司会 服部、坂口  
 総会は次期役員の選任する大事な会ですので必ず出席をお願いいたします。

### 第二例会

と き : 2月26日(火)  
 と ころ : 名古屋YMCA  
 時 間 : PM7:00~  
 10周年記念実行委員会  
 昨年からの委員会を重ね今年から、具体的な行動に入っていきます

### その他

第五回Y・Yフォーラム実行委員会  
 と き : 1月29日(火)  
 時 間 : PM7:00~  
 と ころ : 名古屋YMCA

1月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(1月)	
	在席者	24名	第1例会	16名	当月・切手		ニコBOXノート	
	例会出席者	20名	第2例会	12名	当月・現金		感謝ファンド	
当月出席率	83.33	部 会 他	1名	累 計		累 計	9690	

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”  
 = 強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う =

## 第一例会報告

第1例会 名古屋地区新年合同例会  
1月18日(金)6:30~  
ラ・スースANN(大津橋)



今回で3年目を迎える新年合同例会は、わがグランパスの加藤道子君の部長時代に始まり定例化されました。それまで同じ名古屋地区のメンバーでも互いに知らないという状況が多々ありました。昔はほとんどの人が顔見知りだったようですので、時が経つにつれ新しいメンバーも増え、交流も少なくなり段々とクラブ間に壁のようなものができてしまったのでしょうか。そこで名古屋YMCAを中心に同じ地区で、共通の目的をもって活動している仲間が一同に会し、親睦を深める場ができないものかと提案し、各クラブの同意を得ることができました。ホストクラブは持ち回りで、今年は南山クラブが担当です。



開会の6:30には参加者約80名のほとんどが揃い、開会セレモニーの後、第1部の馬頭琴の演奏が始まりました。馬頭琴はモンゴルの民俗楽器でチェロを小さくしたような形で音もそっくりです。奏者のリ・ポー氏は名古屋に在

住し、かのヨー・ヨー・マにも絶賛された方だそうです。モンゴルの曲から日本の曲、クラシックに至るまで広いジャンルのレパートリーを披露していただきました。会場の音響も良く、モンゴルの草原に居るような気分させられ、さわやかな時間を過ごすことが出来ました。



第2部は着席のコース料理で大変美味しくゆっくりいただきながら、クラブの枠を越えて皆さんと歓談することができ、楽しいひとときが持てました。後半会場ラ・スースANNの社長山本芳子さん(以前一誠兄の紹介でグランパス例会で卓話をしていただいたことがある)による詩の朗読もあり、満足度100%の合同例会となりました。

毎回熱心に出席をしておられるメンバーの方たちのふれあいの輪は少しずつ広がっているように感じられ、当初の目的に近づきつつあることがうれしく感じられます。再来年はグランパスにホストがまわってきます。また皆で知恵を出し合って、一味違った企画を考えたいと思います。それまでにグランパスの体質も十分強化し、一丸となれるようなクラブづくりをしたいと思います。

服部庄三



グランパスの参加者面々

## Y M C A だより

### 《100周年記念礼拝が行われました》

名古屋Y M C A 創立100周年を記念して、去る1月15日(火)午後7時より、栄の中央教会において、記念礼拝が開催されました。

当日は、これまで長きにわたって、名古屋Y M C A のさまざまな活動に関わられた方々が多数集い、これからの新たな歩みに向けて祈りがささげられました。参加されたワイズメンの方々にも感謝いたします。

### 《LD(学習障害)児支援プログラムが開講》

同じく100周年記念事業として、LD児のための支援プログラムが2002年4月に正式スタートします。

支援プログラムは次の3つから成ります。

学習

健康(水泳・フィットネス)

仲間づくり(グループ活動)

その他、保護者のための学習会・懇談会、指導者養成講習会などを開催する予定です。ご支援をよろしくお願いします。

船戸 章

## ファミリースキー in 爺ヶ岳



爺ヶ岳の日の出を映す雪原

2002年1月12日午前6時、車載の外気温度計はマイナス5度。加藤兄と私はいつもの撮影ポイントへと向かった。今年のコンディションは最高。積雪十分、天気ヨシ。いつしかこのパターンが私の爺ヶ岳ファミリースキーの恒例となりました。加藤兄の誘いに乗ったのが数年前。スキー道具の他にカメラ機材満載。チャンスはどこにあるか判らない。いつ

もフル装備で挑む心意気。いつしか私も眠い目をこすりながらお供するようになりました。しかしマイナス5度の銀世界に1時間。その時が来るのをじっと待つのは辛いものがあります。でも、時間の経過とともに、グレーからピンク、そしてオレンジ色。太陽が昇れば銀色へと幻想的に変化する雪原に身を置き、その世界を体感できることはすばらしい贅沢だと思います。これだけでもファミリースキーの価値はあります。今度加藤兄から写真展の御案内あったらぜひ行って下さい。きっと爺ヶ岳での傑作があるはずですよ。



ベストショットに集中する加藤兄

さて、今年ファミリースキーは雪には恵まれましたが……。1月2日に名古屋を襲った大雪が寒波の尻尾なら、こちらは胴体。積雪量は半端ではありません。道中の除雪状態を気にしながらの出発でしたが、結論から先には春スキーでした。

雪の量は新聞の情報に偽りなくたっぷりあり、前述の早朝撮影会では気温も低く雪質もサラサラで、その時点ではスキーコンディション最高と判断したのですが……。



早朝のコンディションは最高だったが……

日が昇るとともに気温もぐんぐん上昇し、雪はベタベタの重雪で低温用ワックスを塗ったスキーは



まったく滑らない。スピード命の私としては全く精彩を欠き、上着を脱いでもまだ暑い。1月前半時期のスキーでこのような状態は初めてでした。これもエルニーニョ現象の一端なのか。



雪国の道路標識。どこで止まるの？

それでも午後3時を境に気温がぐっと下がり雪面も硬くなって、ようやく気分が乗って仕事のことも何もかも忘れてガンガン滑りまくり、半日券を消化したところでサッと着替えて、大町温泉郷へ。いつものことながら「やっぱり温泉だわ」。

露天風呂で半身を熱い湯に浸しながら、「来てよかった」と思うのはいつものこと。あくる日雪をかき分け久々にいった葛温泉の露天風呂。幸運にもありつけた「りんどう」の美味しい蕎麦。オプションにも恵まれた今回のファミリースキーでした。



筆者とそのコメット

確か昨年のファミリースキーの記事も私が担当したと記憶にありますが、これも何かの縁、昨年の続きとして「こだわり」を一言。昨年はスキーグッズへのこだわりを紹介しましたが、今回はそこへたどり着くための道具、車へのこだわりを一部紹介します。

みなさんはマイカーをどんな基準で選びますか。メーカーですか。値段ですか。ステイタス性ですか。

私の基準は、「冬季の豪雪地域に、4人が・安心して・早く快適に行ける。そして27インチのママチャリー一台がそのまま車内に乗せられる」です。



私の心強いスキーアイテム

「4人が」は子供たちが親離れした今「2人」でもいい。「安心して」は言わずもがな4輪駆動である。生活四駆と呼ばれる簡易なものではなく、きちんとしたメカニカルな四駆プラス高性能スタッドレスタイヤと最低地上高20cmが確保されれば雪道は「安心」です。「早く快適」は、「快適」だけとらえれば大きく重いオフロードタイプかワンボックスでゆっくり走れば得られることですが、「目的地まで早く行く」ことと「運転手も快適で疲れなし」を追加することで、車両重量が軽く静かでパワーのあるステーションワゴンとなります。最後の「27インチの・・・」は、4人分の2泊以上のスキー道具を楽に詰められる容量と後席住人の十分なスペースがあることです。もちろんその重量で車のおしりが下がらない機構付きが最低条件です。

最近ではスキー行きもめっきり減りましたが、この基準は今後も変わらないと思います。

今回も23度Cにセットされた静かで暖かい車内で「feel collection」を聴きながら、銀世界を安心して快走したことは言うまでもありません。

荒川



雪に埋もれたロッジ玄関の前で